

議 事 要 旨

内 容	第 1 回福知山市新文化ホール基本計画再検討委員会
実施日時	令和 6 年 9 月 26 日（木） 9:30-11:30
場 所	市民交流プラザふくちやま 会議室 3-2 及び 3-3
参 加 者	委員 足立直敬、菊田学美、四方正道、谷垣修身、谷垣均、中村豪文、淵上紫乃、前田竹司、 牧野新子、夜久豊基 事務局（福知山市） 山本（美）、森田、井上、山本（和）、岩木、梅原、和久
使用資料	・「福知山市新文化ホール」に関するアンケート 結果 ・福知山市新文化ホール基本計画再検討にかかる市民説明会アンケート 結果 ・福知山市新文化ホール基本計画再検討にあたっての評価・検討内容(案) ・福知山市新文化ホール基本計画再検討に係るスケジュール(案) ・【スライド】新文化ホールについて考える市民懇談会（事前説明会） ・福知山市文化振興基本方針 概要版 ・福知山市新文化ホール基本構想 概要版 ・福知山市新文化ホール基本計画 概要版

◆委員の主なコメント

委員名	主なコメント
委員 A	・市財政影響評価の項目があり、具体的なシミュレーションを行うとの記載がある。この部分は福知山市の中期財政見通しとの整合性は図るとの認識で良いのか。
委員 B	・当日にデータを共有されるとその理解に時間を要するため、事前共有いただきながら、市民目線で意見を出していきたい。
委員 C	・これまで整理されてきた基本理念に立って、再検討委員会では何を検討するのかを明確にすべき ・これまでの経過を委員もしっかり把握し、市から提示された内容も踏まえながら議論していきたい。
委員 D	・今後としては、問題を洗い出すのではなく、将来のビジョンを持ちながらその中で新文化ホールがどうあるべきかの視点を重視して、発言していけると良いと考えている。
委員 E	・貸館中心から自主事業中心に転換するのは飛躍しているようにも感じる。 ・既存施設を活用してその取り組みを推進することはできないのか。 ・稼働率はどの程度を目指すのか。
委員 F	・委員から忌憚のない意見が出やすい環境づくりが重要と考える。
委員 G	・様々な要因も加味して素晴らしいものを作っていく検討としていきたい。 ・中長期の目線では若者の意見が重要になると考える。
委員 H	・事務局からの説明のボリュームが多いように感じたので、今後はもう少し議論に時間を割けるように配慮していただきたい。
委員 I	・過去の検討の内容を見るとかなり綿密に組み立ててきているという印象であり、再検討の中で何を

	議論するのかの目線を合わせないと議論が発散的になってしまうと感じている。
委員 J	<ul style="list-style-type: none">・貸館中心のやり方がダメなように見えてしまう。・再検討委員会で出た意見は市民懇談会で共有していただけるのか。

議論の要旨

1. 開会

- ・（事務局）今より第1回福知山市新文化ホール基本計画再検討委員会を始める。それでは、開会にあたり、市長よりご挨拶を申し上げます。
- ・（大橋市長）皆様ご承知の通り、福知山市新文化ホール基本計画に多くのご意見をいただいた。そのため多くの市民の方々のご理解を得て整備を進めることが大切であると考え、新文化ホール基本計画についてもう一度議論し、見直しをすることとなった。再検討については、これまでいただいたご意見や市民懇談会などでいただくご意見を踏まえ、再検討委員会で基本計画の全てについて議論をすることを予定している。福知山市の未来を創造する拠点検討に向けて福知山市も全力で取り組むので、皆様にもさらなるお力添えをいただきたい。

2. 委嘱状交付、事務局等紹介、委員長選出

委員長 夜久豊基

副委員長 菊田学美

3. 新文化ホールの検討に係るこれまでの経過について

- ・ 一事務局より新文化ホールの検討に係るこれまでの経過についての説明
- ・（委員長）事務局からの説明について、ご質問やご意見はあるか。
- ・（委員 E）データを見ると「過去の貸館中心の厚生会館は稼働率が低かった」「1,000 席埋まることが少なかった」との説明があるが、その内容に基づき貸館中心から自主事業中心に転換するのは飛躍しているようにも感じる。自主事業を実施しても市民が利用するかは不透明だと考えており、まずは既存施設で取り組みを行い、そこで成功したら、新文化ホールの計画に反映するのが、理に適っていると感じる。現状で、既存施設の稼働率が低いにも関わらず、自主事業を新文化ホールの計画に反映するのは、適切なプロセスを踏めていないと考える。ゲーム機の例えが出ているが、新文化ホールで考えると既存施設とはスペックが異なるため、スペックの低さを理由に使用が減っていた可能性もあるのに、稼働が低いから貸館を無くすというのは違和感がある。
- ・（事務局）日本の文化政策の流れも交えながら回答する。昭和など昔のホールなどの施設は、娯楽を中心とした鑑賞を目的とした活用が多かったが、近年は人々の参加を通じた地域社会の発展を支える機能も期待されるように変化してきている。そのため、福知山市が独自に自主事業という新たな取り組みを推進するのではなく、国全体の流れを受けて、自主事業にシフトしているのご理解いただければと思う。
- ・（委員 E）大きな流れは理解したが、既存施設を活用してその取り組みを推進することはできないのか。新たに施設をつくる必要があるのかなど疑問に感じる部分もある。
- ・（事務局）既存施設である厚生会館は、60 年以上経過している建物であるが、厚生会館として設置された目的としては市の中心市街地でイベントや展示即売会など様々なイベントで活用できるよう整備されてきた。そのため、貸館での利用が中心となり多くの利用がなされてきた。一方近年では、経済的な動向や市内でも体育館など新たな施設が整備される中で、展示会などは別の施設を利用するケースが増えてきている。そのような経過も踏まえ、平成 13 年に文化事業が行いやすいよう改修を行い、文化活動の実行委員会も立ち上げ 20 年以上文化的な活用の取り組みを進めてきたが、ステージのサイズなどで、活用の幅に限界も出てきている状況である。加えて、老朽化の問題や国全体の流れもあるため、これらを複合的に考え、市が市民に直接プログラムをお届けするような形に踏み出してきている状況である。
- ・（委員 E）稼働率はどの程度を目指すのか。
- ・（事務局）現状では厚生会館の大ホールの稼働率は 3 割程度で、全国的には 5 割などの水準である。そのため、

平均を超えていく部分は目指していきたいと考えている。

- ・（委員 J）13p の記載方法では、貸館中心のやり方がダメなように見えてしまう、このような説明では市民懇談会等で誤解を与えるのではないかと。
- ・（事務局）自主事業に力を入れていく部分を丁寧に説明しようとしたところ、自主事業のみのように見えてしまった部分はあるが、貸館を否定するものではなく、貸館と自主事業は両輪で進めるイメージである。
- ・（委員 J）承知した。市民懇談会等では、貸館を否定しているように見える部分は、補足説明等をお願いしたい。稼働率の部分であるが、施設のスペックが変わり、運営面での工夫などでも高めていく余地はあると考える。自主事業中心の場合、平日の稼働率を高める余地はあるのか。平日に貸館で、休日に市民利用などができれば最も良いと感じた。
- ・（事務局）仰る通り、施設の機能面とそれらを支える運営面は重要になると考える。自主事業による平日利用だが、他市事例を見る限りでは、退職された世代が平日に利用するケースも多いと認識している。3 点だけ認識を共有させていただく。1 つ目は、貸館は否定していないので、今後も貸館は実施していく。2 つ目、自主事業は、市民の利用だけではなく、館がアーティスト等呼んで主催するイベントも実施する想定である。3 つ目は、厚生会館の建替を検討するのではなく、新文化ホールをどのように建てていくかについて考える場であるという部分を念頭に置いて、検討を進めていただきたいと考えている。

4. 市民アンケートの結果について・今後の進め方について

- ・一事務局より市民アンケートの結果について・今後の進め方についての説明ー
- ・（委員 H）事務局からの説明のボリュームが多いように感じたので、今後はもう少し議論に時間を割けるように配慮していただきたい。
- ・（委員 F）前回の検討委員会の振り返りも兼ねての発言になるが、前回は文化に関心の高い方が中心に検討を進めてきた部分はあった。今回の検討委員会では、そこで検討された基本理念は踏襲しつつ、今後どうするかを議論していく場と考えている。そのため、委員から忌憚のない意見が出やすい環境づくりが重要と考える。
- ・（委員 E）あと 4 回の中で、数十億円規模の事業を検討するということで、しっかり議論していく必要性を改めて感じている。
- ・（委員 J）再検討委員会で出た意見は市民懇談会で共有していただけるのか。
- ・（事務局）この場で出た意見は、議会報告や HP 公表などを想定している。多くの方に見ていただく内容になるので、ダイジェスト的な示し方にはなるが、どのような議論がなされたのかは見える形にしたいが、その見せ方についても検討委員会の中で、確認させていただくことを予定している。
- ・（委員 G）人口減少などの流れもあり、コンパクトシティなどの考えも出てきており、施設等の検討にあたっては広域的な視点も求められるようになる。このような様々な要因も加味して素晴らしいものを作っていく検討していきたい。
- ・（委員 C）これまで整理されてきた基本理念に立って、再検討委員会では何を検討するのかを明確にすべきと考える。規模や場所、財政的な状況、社会情勢などを踏まえて、限られた時間の中で議論していく必要がある。そのためには、これまでの経過を委員もしっかり把握し、市から提示された内容も踏まえながら議論していきたい。
- ・（委員 I）過去の検討の内容を見るとかなり綿密に組み立ててきているという印象であり、再検討の中で何を議論するののかの目線を合わせないと議論が発散的になってしまうと感じている。資料も膨大になってくると考えるため、各委員が読み込んでから当日の議論ができるよう、当日資料等は早めに共有していただきたい。
- ・（委員 A）再検討にあたっての評価検討内容の項目であるが、その中で市財政影響評価の項目があり、具体的

なシミュレーションを行うとの記載がある。この部分は福知山市の中期財政見通しとの整合性は図るとの認識で良いのか。また、どのような方向性で整理する想定なのかは、分かる範囲で共有いただきたい。

- ・ （事務局） 検討を進めて行く順番としては、規模から検討するイメージであり、そうすると金額への影響も出てくるため、シミュレーション等を行うことを考えている。シミュレーションも様々あるが、他市での事例などから金額などの数値を持ってきて、整理議論していきたい。
- ・ （委員 B） 一利用者として、意見を言っていきたい。当日にデータを共有されるとその理解に時間を要するため、事前共有いただきながら、市民目線で意見を出していきたい。
- ・ （委員 D） 今回の検討委員会からの参加であるため、事務局の詳細の説明は有難いと感じた。今後としては、問題を洗い出すのではなく、将来のビジョンを持ちながらその中で新文化ホールがどうあるべきかの視点を重視して、発言していけると良いと考えている。
- ・ （委員 G） 中長期の目線では若者の意見が重要になると考える。その場合、若者はアンケートだと意見を出しにくいとの話も聞いたので、その他の方法も上手く活用しながら若者の意見を引き出す工夫は重要と考える。

以上